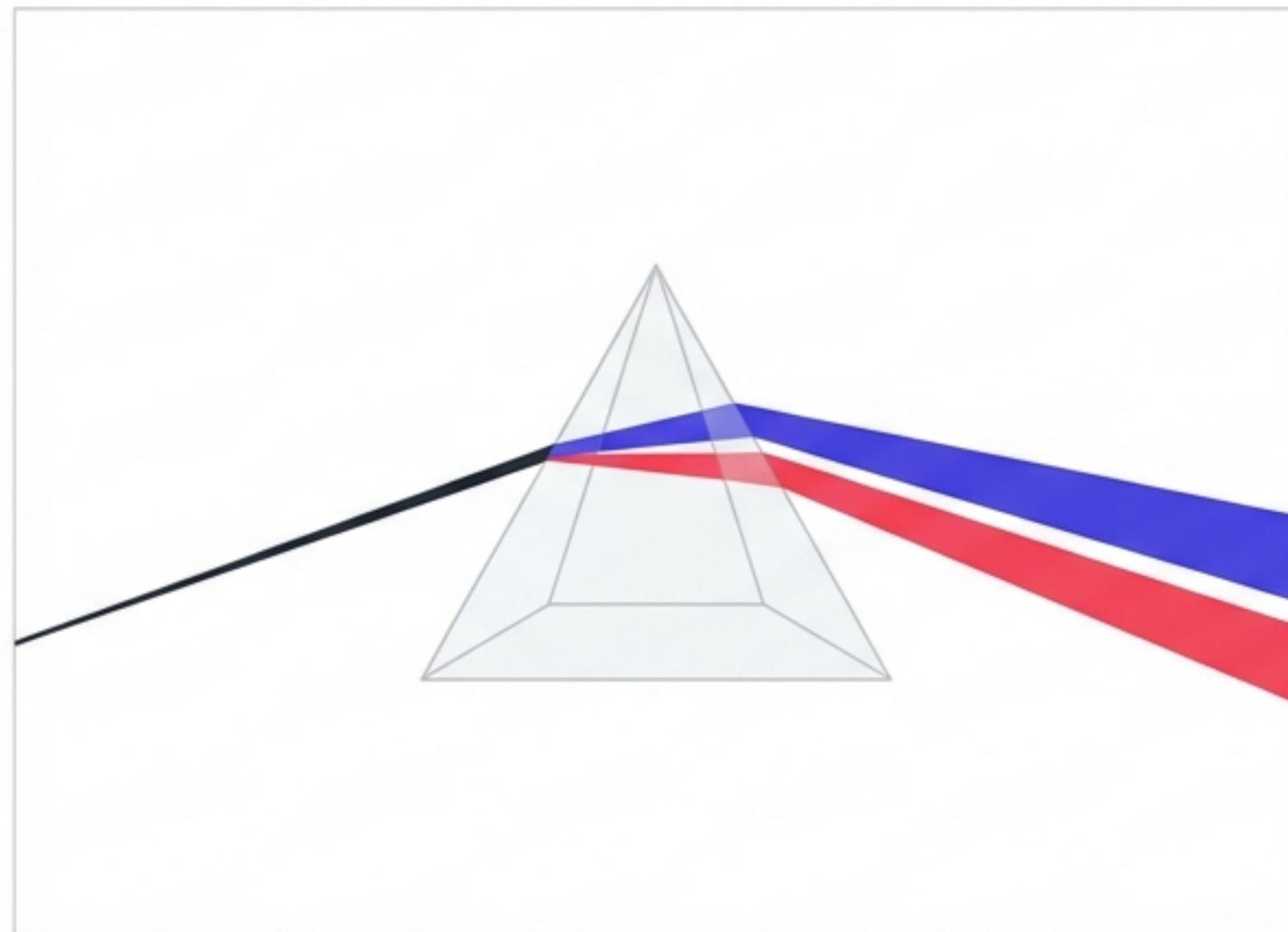
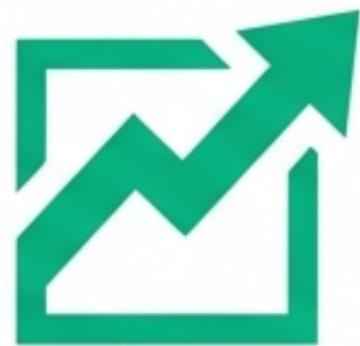


Gemini 3.1 Pro 知財業務影響分析： IPオペレーションへの戦略的示唆

2026年2月リリース・最新ベンチマークと
実務適合性評価



エグゼクティブサマリー



飛躍的な推論性能

前世代(3.0)比で推論能力が2倍以上向上。Artificial Analysis Indexで総合1位を獲得。



圧倒的なコスト優位

Claude Opus 4.6やGPT-5.2の約半額。1Mトークンのコンテキストウィンドウで大量処理が可能。



業務適性の二極化

分析業務には「最適」だが、明細書起草には「期待外れ」。万能ではないため、使い分けが必須。

技術仕様の進化：Gemini 3.1 Pro vs 競合モデル

項目	Gemini 3.1 Pro	Gemini 3.0 Pro	Claude Opus 4.6
コンテキスト	100万トークン	100万トークン	Standard
思考プロセス	3段階 (Low/Med/High)	2段階	Standard
ベンチマーク (ARC-AGI-2)	77.1%	31.1%	68.8%
価格 (Input/Output)	\$2.00 / \$12.00	\$2.00 / \$12.00	High

最大の革新は「Low・Medium・High」の3段階思考システム。コストと精度のトレードオフを制御可能に。

「3段階思考システム」の知財活用マップ

Level 3: High
(無効化論理構築・侵害判断)

「Gemini Deep Thinkのミニ版」として
深い論理展開を実行。

Level 2: Medium (クレーム解釈・関連性分析)

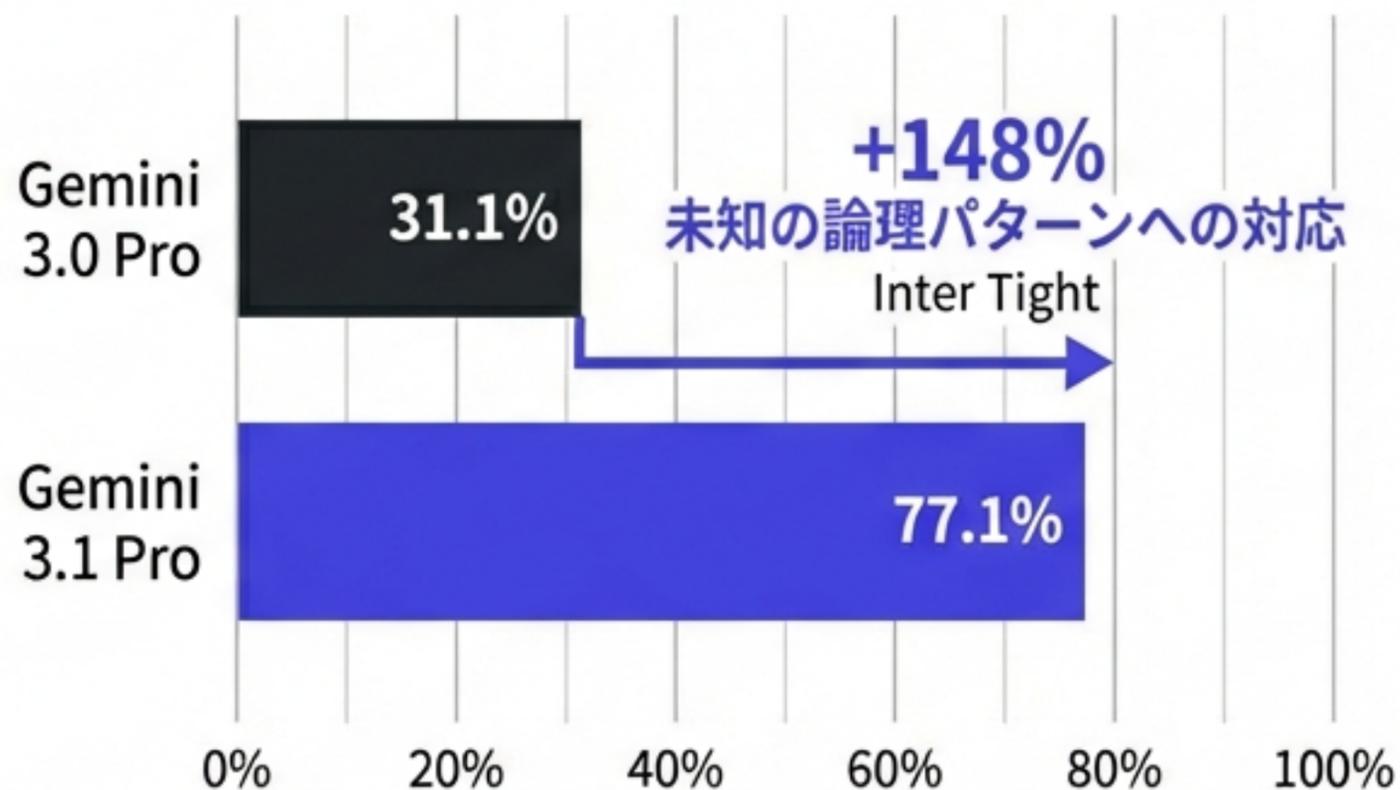
旧Highモード相当。先行技術とクレーム構成要件の照合。

Level 1: Low (スクリーニング・分類)

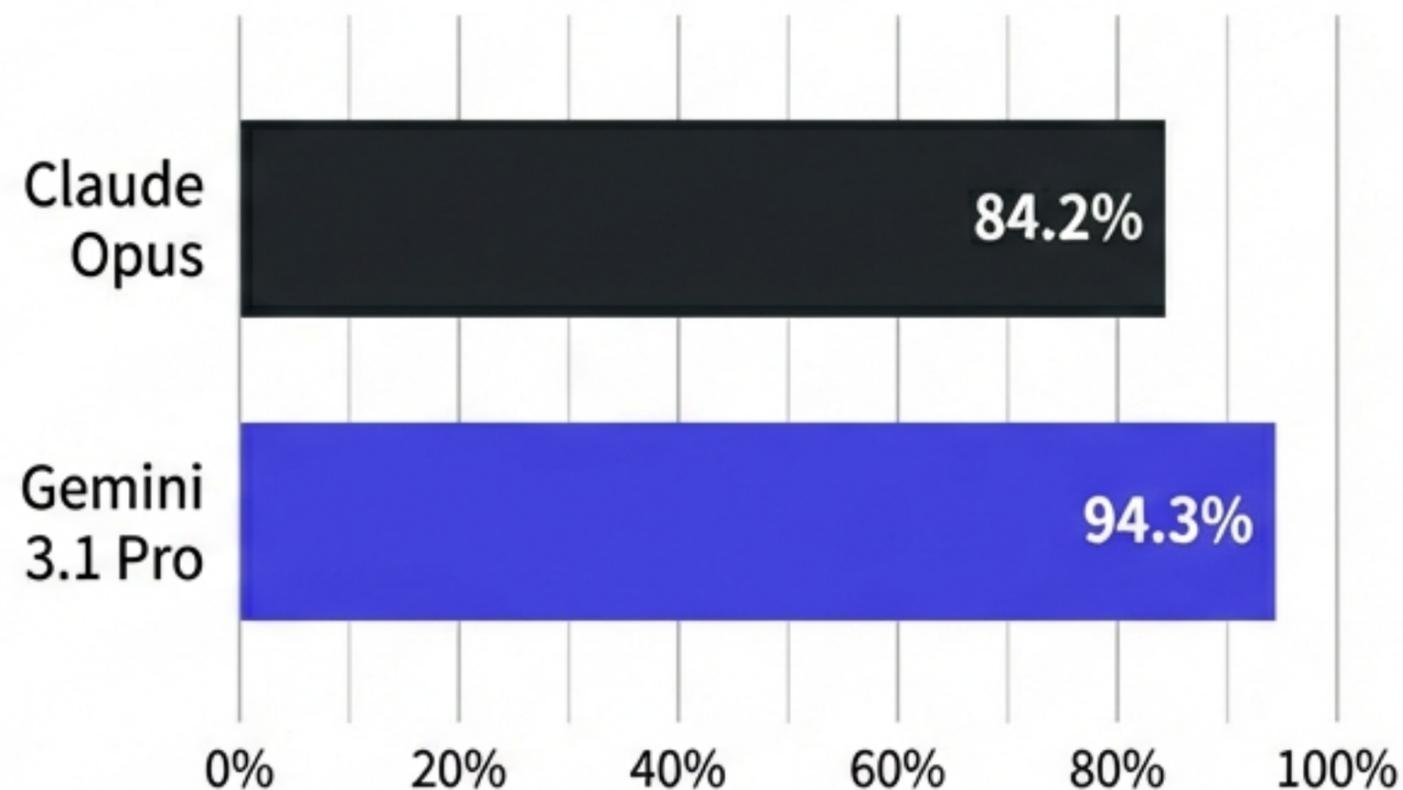
コスト最小化。大量の特許文献の一次フィルタリングに最適。

ベンチマーク：論理と科学における圧倒的優位

論理推論 (ARC-AGI-2)

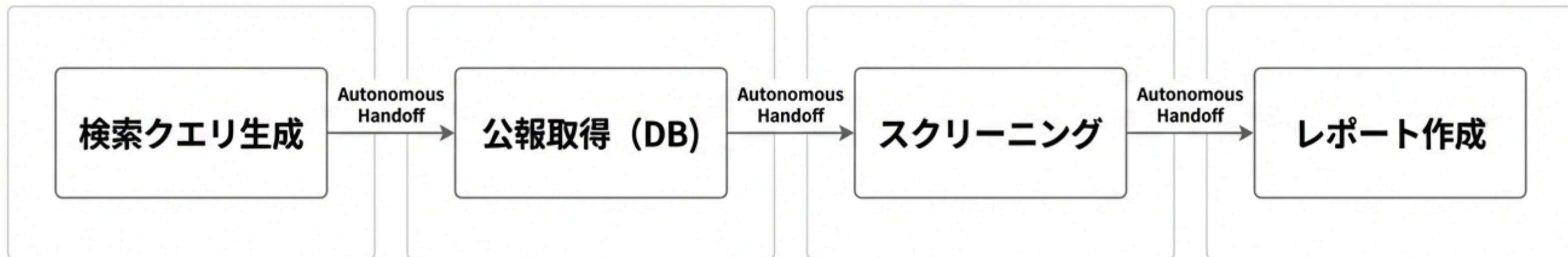


科学技術 (GPQA Diamond)



化学・バイオ・材料科学分野の特許理解において、大学院レベルの精度を発揮。

「自律型エージェント」による調査自動化の現実味



APEX-Agents Score: 33.5%

前世代 18.4%から+82%向上↑

単なる質問応答ではなく、ツール連携（MCP Atlas 69.2%）が改善。
完全自動化ワークフローが実用域に。

実践テスト：明細書起草における「期待外れ」の現実

Source: 知財デザイン社 川上成年氏による検証

期待値 / Claude Opus Output



Gemini 3.1 Pro Actual Output

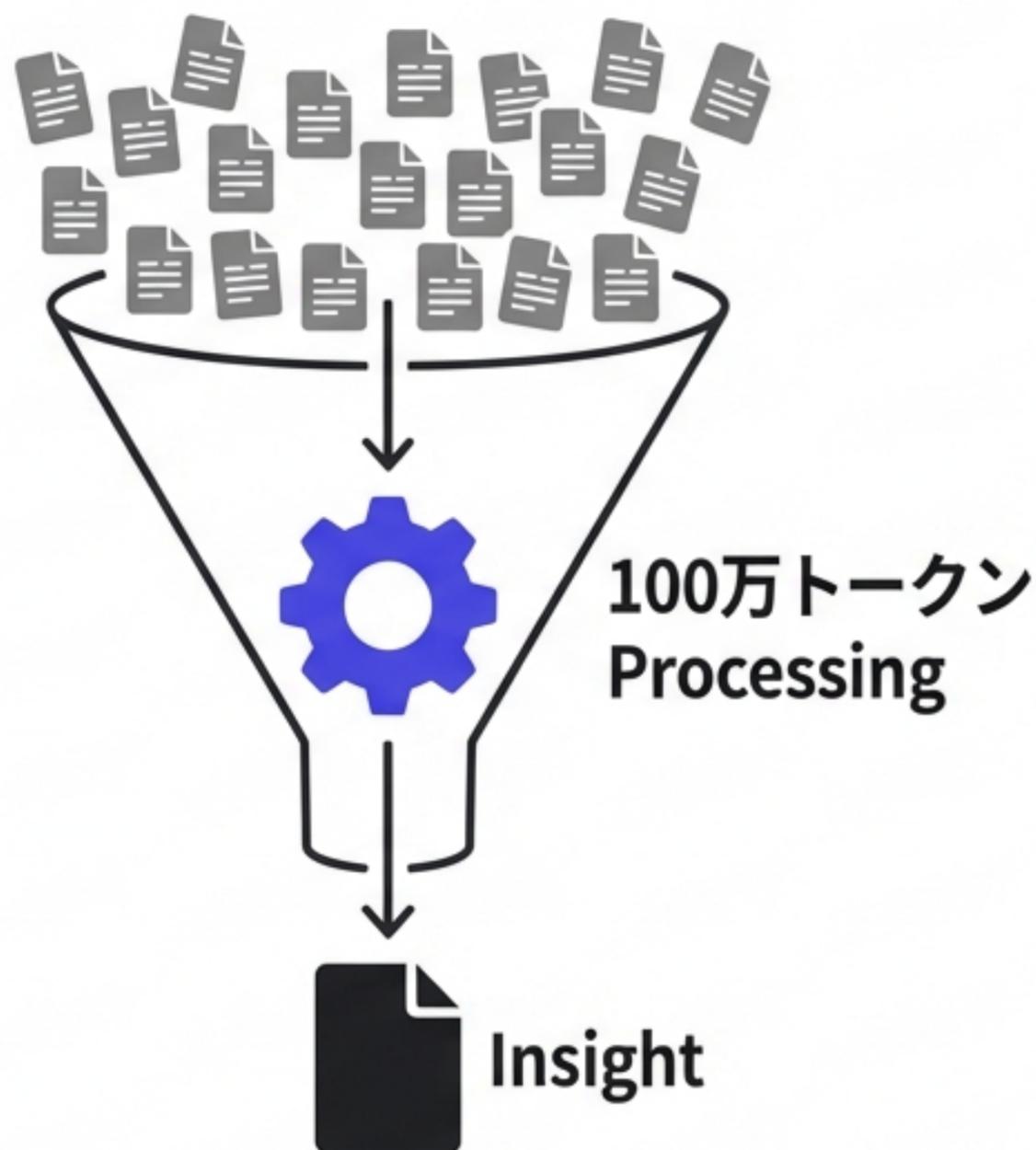


構造: 正確（クレーム、段落番号は適切）。

致命的欠点: 出力が著しく短い。網羅性と詳細な実施例が不足。

結論: 「正直期待外れ」。明細書作成には依然としてClaude Opus 4.6が優位。

パテントランドスケープ分析における圧倒的優位



なぜGeminiが勝つのか

- **100万トークン**: 競合他社のポートフォリオ全体を一度にコンテキストに読み込み可能。
- **低コスト**: Claude/GPTの**半額**。数千件規模の分析でも予算超過を防げる。
- **科学理解**: **GPQAスコア(94.3%)**に裏打ちされた、技術的ニュアンスの正確な分類。

業務別適合性マトリクス

業務	Status	備考
特許ランドスケープ分析		1Mトークン × 低コスト × 高推論
先行技術調査		科学理解力 + マルチモーダル
クレーム解釈・無効化分析		Highモードは有効だが、 法的判断は専用ツール推奨
特許明細書起草		出力長不足・網羅性欠如 (Claude推奨)

戦略的提言：マルチモデル・オペレーション



単一モデルへの依存を捨て、適材適所でパイプラインを構築する。

マルチモデル導入によるコストインパクト



Gemini 3.1 Pro Pricing:
Input \$2.00 / Output \$12.00 (per 1M)

**競合ハイエンドモデルの
約50%のコスト。**

Insight

大量のトークンを消費する「読み込み・分析」フェーズをGeminiにオフロードすることで、全体の運用コストを劇的に圧縮可能。

導入に向けた3つのリスク要因



Latency

プレビュー版の遅延: 応答開始まで平均約32秒。リアルタイム対話には不向き。



Output Limits

出力長の制約: 64,000トークン上限だが、実際には短くなりやすい傾向。長文生成には分割出力の工夫が必要。



Tool Dependency

専用ツールの必要性: 法的精度では専用ツールに劣る。DeepIPやPatlytics等のRAG搭載ツールとの併用が前提。

今後の展望とエコシステム

Immediate

Near Future

Gemini 3.1 Pro GA（一般提供）
版でのレイテンシ改善と出力
長安定化。

Harvey AI等のリーガルテッ
ク・プラットフォームへの統
合。

Insight

AI競争のサイクルは「**数週間単位**」。特定のモデルにロックインせず、常に最新モデルに切り替えられるAPI設計が重要。

結論：AI時代の知財戦略

「分析」には Gemini 3.1 Pro

「起草」には Claude Opus 4.6

それぞれの強みを活かしたハイブリッド運用が、現時点での最適解である。

主要参照ソース

- Google Blog: Gemini 3.1 Pro Official Announcement (2026/2/19)
- Artificial Analysis: Intelligence Index v4.0
- 川上成年 (Note.com): Gemini 3.1 Pro を使った特許明細書テスト
- Box Japan: Gemini 3.1 Pro Enterprise Evaluation
- VentureBeat & Harvey AI Early Access Reports